

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日	
		指定年月日	平成29年12月1日	
法人名	株式会社 ソラスト			
事業所名	グループホーム ソラスト 富岡			
所在地	(236-0052) 横浜市金沢区富岡西6-43-31			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9	名
		ユニット数	1	ユニット
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年5月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段の生活に於いて、外出を特別な事とせず、日常の中の一部とし、ごく普通に組み込んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年1月29日	評価機関 評価決定日	令和2年5月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「京急富岡」駅東口から富岡中央商店街沿いに歩いて15分の所にあります。近くには地域ケアプラザや、隣接して散歩ができる富岡西公園があります。建物は木造2階建てで1階が共有スペース、2階が居室となっている1ユニットのグループホームです。

<優れている点>

事業所の理念である『安心、安全、楽しい我が家、その人らしさを大切に、天気の良い日は外に出よう』の下、日常の外出を認知症の進行防止の取り組みとして位置付けています。生き生きとした日常になるよう、事業所内外でのレクリエーションを多く取り入れています。時間を取ってスタッフミーティングを行い、ケアプランを基に入居者個人の現在を話し合い、共有して利用者にマッチした介護が出来るよう努めています。

<工夫点>

年1回、「夢をかなえる個別ケア」を入居者全員を対象に企画しています。本人の希望を聞き取り、実現に向けて、家族、職員と共に取り組んでいます。「身体拘束禁止」に向けて、本人の自立の希望に沿うことを第一に考えた上で、安全、安心策を話し合い、サポート方法を見直すことで、自立歩行の再開に繋がっています。地域ケアプラザ、近隣の住民の避難訓練でのサポート、町内会の行事参加、地区の福祉拠点の活用、ボランティアの積極的導入など、地域に開かれた事業所作りを推進しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ソラスト 富岡
ユニット名	

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
	✓	3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	✓	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	✓	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
	✓	3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
	✓	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
	✓	2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設ではなく、ご自分の家として、その方らしく、その方のペースで穏やかに生活して頂き、何時もホームで過ごすのではなく、普段から外出等を行い、生き生きと生活して頂くよう心掛けております。	事業所理念である「安心、安全、楽しい我が家、そして天気の良い日は外に出よう」を掲げ、積極的に外出をしています。外出により、認知症の進行が明らかに遅くなったり、周辺症状が少なくなる事例があります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の八百屋やパン屋、また大型スーパーといったところへ買い物に出かけ他のお客さんとコミュニケーションを取ったり、地域ケアプラザや町内会の催し物には積極的に参加し、地域の方との交流を深めている。	外に出かけ、人に会う事を大切にしています。散歩や、商店街での買い物の同行、地域ケアプラザ、町内会（プロレス観戦）などの催しに積極的に参加しています。隣接する公園では散歩の人や子供たちと言葉を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近所の商店や大型スーパーに出かけることで、当ホームの入居様が、買い物に来ていたお客さんの目に触れることにより、認知症ケアがどのような形で行われているか、その一端を見せることが出来ていると思われる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の一部として、2018年度より、身体拘束適正化委員会を開催し身体拘束についての協議を行っている。その場で頂いた意見等を実際のケアの現場で生かせるよう努めている。	地域包括支援センター職員、家族の参加の下、定期的開催しています。行事報告、ヒヤリハットの報告や改善案など、充実した内容です。議事録は区役所関係部門へ送付し、家族への便利にも同封し、報告しています。	外部からの参加者が少なくなってきました。家族、地域、福祉関係者、職員を含めた話し合いの場として、法人も含め、更に理解を深めていくことも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	金沢区グループホーム連絡会に参加しそこで同席される区の高齢支援課の職員さんと意見交換や話し合いを行っている。また、入居に関する問題等で相互に協力し合う関係を築いている。	区職員も参加して8事業所によるグループホーム連絡会で、それぞれの状況や種々の福祉情報を入手しています。隔月で介護相談員が来所し、入居者全員の思いを直に聞いています。その内容を参考に事業所運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に外部研修の参加や勉強会を開き、身体拘束廃止の理解や話し合いを行っている。拘束をしないケアの工夫をスタッフと共有している。	運営推進会議と同時に身体拘束禁止の会議を開催し、勉強会の報告などを行っています。夜間、ベッドからの立ち上り時の転倒防止を、本人の意思を含めてどうサポートしていくかを話し合い、センサーマットの導入だけでなく、支えとして椅子やポータブルトイレの配置を工夫しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の業務内にて職員のストレスや勘違いケアの把握を行い業務改善に努めている他、定期的にミーティングで職員と虐待やその防止について勉強会を開くことで、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	プライバシーや尊厳といった研修とともに研修を行っているが、日常生活支援事業等の制度的なものは全てのスタッフが理解できているとは言いがたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては事前に入居者及びご家族に説明し、予め、契約書と重説を送り、内容の確認を行って頂いております。その上でご理解、ご納得して頂いたのちに、ご契約させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各入居者様のご家族様、ご関係者様に毎月活動報告書を送らせて頂いております。その上でご要望等が有れば、ご連絡して頂く形を取り、ケア等に反映させるよう心掛けております。また、事故等でこちらから連絡した場合等に要望等は必ずお尋ねしております。	家族会は開催していませんが、運営推進会議に家族が多数参加しています。毎月、利用者ごとに写真を多用して、生活の様子を詳しく記載した便りを送付しています。返信には、礼と共に要望などが記載されることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にスタッフミーティング等で意見を出し合う機会を設けており、業務内容等に反映させているが、ミーティングに参加出来ていないスタッフもいる為、そういったスタッフから直接意見を聞けないといった状況もある。	月2回のスタッフミーティングで、課題や改善点を話し合っています。個人面談も計画しています。直接、職員の意見を法人管理部門に反映させる仕組みは今後の方針としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	どの職員がいつでも相談できる窓口を設置していたり、本部職員と現場職員が勤務環境について話せる機会を設け改善を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加だけではなく、定期的に多くの内部研修も行っており、職員のスキルアップを積極的に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区グループホーム連絡会に於いて各GHの管理者と意見交換等を行い、ホームに運営に役立てている。また空室情報を共有し合うことにより、入居希望者の対応を迅速に行うことが出来る。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居される前に、ご家族、担当ケアマネ、担当医等からの情報をもとに、ご本人から世間話など交えながら聴き取りを行い、どのようにここで生活したいのか、その思いを引き出せるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居が決まった方のご家族との話し合いは、不安に感じていることを引き出し、それを少しでも和らげるよう説明を行うよう努めている。また、ご要望に関しては、出来ることと出来ないことをきちんと説明し、誤解される事のないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約される前の段階で、ご家族とご利用者との関係に於いて、きちんと見極めたうえで、ホームでの生活が必ずしも良い選択でないと判断した場合は他のサービスを利用を促す等の助言を行うよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様は人生の先輩であるという考えを基に色々な場面で教えてもらう事が多い。その為、そういった場面を持つよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	当ホームでは面会時間の制限は特に設けず、ご家族に時間を気にせず来所して頂いている。また入居者様の日ごりの状態をきちんと報告し、何かあれば相談することで、ご本人を支える協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個別ケアを実践しており、ドライブで馴染みの場所へ出向いたり、お墓参りに出掛けたりしている。またボランティアさんの来所により、昔から好きな趣味等を楽しまれている。	大切な取り組みとして、事業所の年中行事とは別に、入居者個人が行ってみたい場所、やってみたいことを実現するように企画しています。墓参り、友達に会いに行くなど多彩な希望の実現を支援し、利用者からも喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれが他の入居者様と一緒に楽しくすごしてもらえるよう入居者様同士の相性を把握し職員が間を取り持って会話や場面を作り、穏やかに過ごして頂けるような環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院中、退去が決まり、契約が終了しても、ご家族からの相談があれば相談に乗り、必要があれば病院や施設に赴き、要望があれば可能なかぎり、対応できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、ご本人の言葉や表情、態度等から、何を思い、何を感じているのかを推測し、職員同士で確認し合いながら、その方の思いを把握するよう努めている。	自分で歩きたい、排せつをしたいなど、入居者本人の生活上の自立の思いを受け止め、実現に向けて、スタッフで話し合い、試行錯誤しながら実践しています。より良い方向になるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人のプライバシーに十分配慮しながら、生活歴等の情報を得て理解を深め、ケアに生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の暮らし方、生活リズムを総合的に見て、考え、感じ取り、時には職員も一緒に関わりながら、有する力を発見していくことに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	体調管理のケアを基本とし、その上でご本人、ご家族の意向を取り入れ、医師、訪問看護師、薬剤師からの意見を参考にし、スタッフ会議等で話し合いを行い、ケア方針決め、介護計画を作成している。	6ヶ月ごとにケアプランの見直しをしています。月2回のスタッフ会議で、入居者の現在の状況や看護師の意見を参考に話し合い、モニタリングを行っています。日々の介護に反映できるよう作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の個別のスケジュール記録と介護記録を併用し一日のご本人の様子や変化を記録することにより、情報の共有を行い、日々の変化を把握しケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の状態の変化に合わせ、入居者様やご家族のニーズに応じ急な診察や物品購入等を行っている。またご家族の要望により、外出及び通院介助も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様が安全で豊かな生活が出来るよう、地域ボランティアの定期訪問、地域ケアプラザの催し物への参加を積極的に行っている。また入居者様が離設しまった時に備え、地域への協力もお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療の際、必要な情報をドクターに事前に伝えることにより、細やかな受診が行えるよう支援している。またご本人の状態に応じ専門医に受診できるよう対応している。	入居者全員の了解の下、事業所の協力医をかかりつけ医としています。月2回、訪問診療を受診し、週1回、看護師が健康管理を行なっています。24時間オンコール体制です。契約者に毎週歯科医が訪問診療・口腔ケアに来ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の気付きや体調の変化に留意し、訪問看護師と情報交換を定期的に行い、必要に応じ、相談、助言を受けている。オンコール体制もとっていることから、24時間緊急時に連絡を取ることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、ご家族、担当看護師、ケアワーカーや担当医師と情報交換や相談をし、退院後は速やかに元の生活に戻ることが出来るよう、ケアについて話し合い、実践し対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の意向を随時確認しつつ、出来る範囲でご本人が望まれるケアを実践出来るよう医師、訪問看護、ホーム職員で連携をとり話し合いをしながら重度化や終末期の支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化に関する指針」を説明し、同意を得ています。実際に重度化した場合は、改めて医師、訪問看護師、家族、職員で話し合っています。職員は終末期の対応の経験があり、また毎年、ターミナルケアの研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	個々の入居者様が抱えるリスクを把握し、急変時及び感染症対策の手順を研修を通し職員全体で学び、AEDによる救命救急訓練を行う等し、急変にそなえた対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な防災訓練において避難経路の誘導の確認や安全な非難方法の検討を行っている。また近隣住民の方に訓練の参加をお願いし、災害時は協力要請を行えるよう緊急時の対策を取っている。	年2回、消火や避難訓練を行っています。そのうちの1回にはボランティアの人や近所の数名の人が参加・協力してくれています。地域の災害訓練に職員が参加したり、AEDの使い方を職員が指導しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の人格の尊重やプライバシーの確保については、それらに関する研修はもちろん接遇の研修も行い、間違った声掛け等行わないよう全スタッフが統一し実行するよう努めている。	毎年、接遇の研修を行っています。入居者への言葉かけは、大きい声で言わない、小さい声で話すなど、羞恥心を損ねないよう日頃から注意し、徹底するようにしています。個人情報書類は鍵の掛かる書棚に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉の理解が困難な入居者様には簡単な言葉で声かけし、何をしたいのか促しを行い、職員の手を引っ張るなどの行動に出た場合は、一緒に行動し何を行いたいのか見極めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の生活ペースを尊重し、スタッフの都合を優先しないよう努めている。また、毎日をどの様に過ごしたいのか入居者様のペースを把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の馴染みの衣類や好みのものを取り入れることが出来るよう支援している。またご家族の協力を得ながら衣類の整理、購入を行う場合もある。二月に一度は訪問理美容を利用し、好みの髪型を出来るだけ楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個別レクの実践により、ご自分の食べたいものがある飲食店にお連れしたり、買い物レクでお好きなものを購入してもらったりしている。また昼食は必ずスタッフが一緒に食事を摂るようにし、出来る方は自分でお膳を下げてもらっている。	入居者は2～3に分かれ、イタリアンレストランで食事をしています。また、個別で中華料理を食べに行ったり、焼き鳥ランチを食べに行ったりもしています。出前で入居者の好みの弁当を取った事もあります。個別レクリエーションを含め食事を楽しむように支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	メニュー作りの際、栄養バランスに配慮し、また嚥下に問題がある方は、それにあわせたやり方で食事、水分をお出ししている。また水分量はきちんと記録し、不足しないよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	入居者様の状態に合わせて、食後洗面所にお連れし、口腔ケアを行っている。また入居者様の状態により、スポンジブラシ等を使用する等、個々の状態に合わせてた口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的にトイレにお連れする以外に、入居者様の様子を察知しトイレにお連れしている。またパット使用についても入居者様にあわせ、細かく検討している。またトイレチェック記録等からトイレの回数が少ない方に促しを行い、失禁防止等に努めている。	業務日誌で排泄を時系列に見られるようになっており、職員はタイミングを計って適切な排泄支援を行っています。排泄の感覚を忘れないようにするため、極力自立で排泄出来るように支援しています。居室にポータブルトイレを置いている人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録等から排泄パターンを把握し、便秘の方には水分の促しを行い、ヨーグルトや寒天等を召し上がって頂いている。また毎日体操を行い、時には腹部マッサージも行い腸の働きを促すように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一日を通し、ご本人の希望の時間に入浴して頂いております。体が温まり、また入浴が楽しみになるよう入浴剤を使用しております。また安心して入浴して頂けるよう色々な会話をしながら入浴して頂いております。	1日2～4名で、週に2回、入浴しています。概ね1対1で入浴支援をしていますが、自立で入浴できない場合はシャワー浴としています。入浴拒否を減らすためもあり、有名温泉の入浴剤などを使っています。家族からももらったゆずでゆず湯もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方にあった日中の活動を促し取り組んでもらい夜の安眠に繋げております。シーツ類は週に1、2回は必ず洗濯し、また居室の温度、湿度を適正に管理しております。夕食時や入眠前にはカフェインの少ないほうじ茶等をお出ししたりしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬表や薬局からもらったお薬表等から職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は服薬者、確認者とわけ、ダブルチェックを行い、誤薬を防ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事等の仕事が好きな方や、音楽を聴くことが好きな方、パズルが好きな方など好きなことに取り組んで頂くよう努めております。また買い物、お散歩などに行って頂き、気分転換を図るよう支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近くの公園や一寸した買い物にスタッフと一緒に掛けるよう努めており近隣の方とコミュニケーションが取れるよう支援しております。また地域の催し物やご家族の了承を得て個別での外出など、外出は積極的に行っております。	理念に「・・・天気の良い日は外に出よう」とあります。鎌倉への初詣、八景島あじさい祭りに入居者全員で行っています。毎月のように、祭り見物や小学校の運動会観覧、ケアプラザでの催し物参加などで出かけています。個別支援で入居者とひな人形展に出かけた事もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームは原則、お金の管理は行っていないので、ご本人がお金を所持したいという要望があった時はご家族等に相談し自己責任で所持して頂いております。買い物レクに行った時は、原則立替で購入して頂いていますが、お金を所持されている方は自由に使えるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族の了承を得て、電話をかけてもかまわない入居者様にはご本人からの要望があった場合に、電話が出来るよう支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の写真を飾ったり、心地よい音楽を流したり、リビングの飾り付けをしたりと、落ち着いて穏やかに過ごして頂けるよう工夫しております。	1階が居間・食堂がある共有空間です。季節の飾り付けや行事の写真が掲示してあります。室内は明るく、快適に過ごせるよう職員が温度・湿度管理を行なっています。入居者が自分でつかまり歩きができるよう、食堂部分の椅子の配置は狭くする配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前に2台のソファを置き、入居者が自由に座り、くつろいで頂けるよう、またも一人で過ごせるテーブル席も用意し、一人で過ごしたい時に座って頂けるよう努めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の思い出のある寝具やタンス、写真等思い出のある品々を使用して頂き、居心地よく穏やかに暮らして頂く様、配慮している。	居室は2階にあります。クローゼット・照明・エアコン・ベッドが備え付けです。写真などが飾ってあり、位牌やテレビ、椅子など思い出の品もあります。居室担当職員がおり、掃除、季節の衣類の入れ替えなど支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の身体の状態にあわせ、自立での歩行及び自力でトイレを使用出来るような環境作りの実施、また出来るだけ安全に移動出来るよう、タンス等の置き場所の工夫を行い、自力で居室内を移動できるよう環境作りに努めている。		

2019年度

目標達成計画

事業所名 グループホームソラスト 富岡

作成日： 2020年 5月27日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営推進会議を活かした取組みに於いて、参加者が少ない。以前良くご参加して頂いた地域住民の方も、最近では足を運んで頂けることが殆ど無くなっている。また、当法人の執行部の人員が当ホーム開設以来全く参加しておらず、法人としての活動や考え方を参加して頂く地域の方に直接お伝えすることが出来ていない。	まず、法人の幹部、関係者には必ず参加して頂き、法人の考え方、活動等を参加して下さる関係者の方に、直接お伝えできるようにする。そうすることにより、他の関係者の方の参加を一層促すことが出来るようになると思える。	法人幹部、直属の上司、又は代理に当たる方に必ず参加してもらう様に連絡を今まで以上に円滑に行う。（但し今後の新型コロナの状況を見ながら運営推進会議自体の開催をどのように行うか考える必要がある。）	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月